

平成２７年度第２回瀬戸市環境審議会 議事録		
日 時	平成２７年９月２９日（火） 午前１０時３０分～１１時４５分	
場 所	瀬戸市役所 ４階 大会議室	
出席者	審議会委員	出席 １３名 千頭聡会長、青山清敏委員、石川良文委員、市川春代委員、 稲垣登美一委員、川瀬秀之委員、蔵治光一郎委員、 戸田千里委員、服部富久美委員、平出正孝委員、 水嶋俊司委員、山口圭介委員、山田辰巳委員 欠席 １名 高野雅夫副会長
	事 務 局	瀬戸市市民生活部 上田喜久環境課長、中桐淳美課長補佐兼環境保全係長、 久野秀幸ごみ減量係長、奥田健二環境保全係主事 国際航業(株)技術本部社会インフラ部まちづくりグループ 丸山亮主任技師、久保田広治主任技師
次 第	内 容	
１ 開会	○開会の言葉	
事務局	○出席委員の確認・会議成立の報告 ○資料確認	
会長	○挨拶	
２ 議事	以下のとおり。	
議事(１)	第２次瀬戸市環境基本計画中間評価の実施について	
事務局	○資料の確認 ○資料１「中間評価の進め方」、資料２「環境指標の進捗評価と今後の取組み」「リーディングプロジェクトの進捗評価と今後の取り組み」に基づいて、内容説明を行なった。	
会長	・気がついたことなどはあるか。	
委員	・「都市交通に満足している市民の割合」が数値向上しており達成となっているが、市民感覚として本当にそうなのか懸念がある。どのようなアンケートによるのか。	
事務局	・第６次総合計画策定のためのアンケートである。無作為抽出のため当初の対象者と同じでないが、統計的には向上している結果である。	
会長	・地域の実情などを勘案し、例えば地域別の集計結果などはあるか。	
事務局	・地域別の集計結果はない。	
委員	・アンケートは必ず誤差が含まれるので、１％上がったとか詳細は意味がなく、全体的な傾向を見る程度のものと考えたほうがよい。ただ、アンケート自体に偏りがないかなど、確認しておくことは必要である。	
委員	・森林面積が１ha 増えているが、この要因は何か。 ・また、お祭りの参加人数が減っているが、瀬戸市には他にも様々な祭りやイベントがあり、これらを含めると全体的には増加していると思われる。指標として適切なのか。	

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林面積については担当課に確認したが、数値上はこうなっているが、具体的に実際に森林が増えたかどうかの確認はできていない。</li> <li>・お祭りの参加人数については、数の把握自体から不統一な手法であり、市の政策課題としても認識している。感覚的には、人数は増加していると思われる。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の指標が適切かどうかも含めて意見をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果を表形式で整理されているのは、たいへん判りやすくてよい。評価で△や×の項目があるが、市として特に重要と思われる項目があれば説明してほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然との親しみを感じている市民の割合」については数値が下がっており×になっているが、この要因として、本市の豊かな自然環境を財産として積極的にアピールしてこなかったことが考えられる。また、愛・地球博をきっかけに環境活動の活発化や環境団体も増えており、行政だけでなく、これらを連携させる仕組みづくりも必要と考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全・安心に暮らす」のところで、環境基準を満たしていないものがあるが、これは深刻でないと考えてよいのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、蛇ヶ洞川については環境シンボルとして敢えて厳しい基準を適用しており、このために達成できてない項目があるという事情がある。大気や水質は、以前より達成が困難な状況となっているが、様々な施策は講じており疎かにしているわけではない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の担い手育成の指標は達成見込みとなっているが、実際には担い手だけを育成しても、適切な農地が借りられないとか、借りた農地も獣害等の問題があるなどの課題も発生している。このあたりの現状も、もう少し調査してほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当課に確認する。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標評価の中で、目標が同じ「現状維持」のものでも評価が△であったり、×であったりするがその違いは何か。特に「自然との親しみを感じている市民の割合」が×になっているが、これは達成見込みもないという判断なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・△と×の違いは今後の施策展開によっては、達成が可能なものと少し厳しいものがあるため、このように区分している。「自然との親しみを感じている市民の割合」についても、先ほど説明したように、これまでの施策展開が十分でなかったと考えており、施策の見直しなども含めて今後検討する必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車保有台数の指標をそのまま受けると、車を持つなという結論になってしまう。本来の目的は温室効果ガス削減であるので、指標の設定などに少し工夫が必要と思われる。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車保有台数は全国的に緩やかに増加しているが、一方で低公害車の割合も増えている。このように指標として懸念があるものがいくつかある。</li> <li>・例えば「環境基本条例・環境基本計画を知っている市民の割合」は、アンケート項目から除外されてしまい、現在のところ数値を把握できない。</li> <li>・環境配慮事業所の認定事業者数については、事業者にとっては他にも様々な環境配慮方法があり、これに限定することがよいのか。限定するのであれば、手続きを簡略化するなどが考えられ、瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議でも議論となっている。</li> <li>・せと環境塾については、指標である講座回数ばかりに捕らわれ、水平展開など発展への方向性が後回しとなってしまう。</li> <li>・環境教材の満足度についても、需要が変わってきている現状もある。</li> <li>・ごみ減量については、指標は達成しているものの、エコプラザの閉鎖など、当初想定していた施策が展開されていない。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコカーなどの保有台数の数値は多分とられていないと思うが、保有台数に何らかの原単位をかけることで割り出すこともできるので、指標の適否を含めてもう少し検討する必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみに関しては、海上の森センターの前の道路にも不法投棄が見られるが、それらの対策については、道路管理者である維持管理課などと連携して対応する必要がある。</li> <li>・環境講座については、県でも実施しているものがあるので、連携をとって展開すると効果的である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林については、手つかずの森なのか、里山のように手を入れることで維持される森なのかで対応も変わってくる。また、市街化調整区域との関係はどうなっているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画に記載しているが、保護、保全の考えを基本に、区域設定などを検討して進めている。</li> <li>・市街化調整区域については、計画策定当初は念頭に入れていなかったと認識している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林面積については、過去は4年間で22haが減少していたが、その減少の速度は以前よりも鈍化していると表現することが重要である。さらに、その22haが計画にある「都市計画上、必要不可欠とされる開発」であったのか精査して示す必要がある。</li> <li>・自然に対する親しみの満足度が低いことについては、森林側からも市民へその魅力を発信してこなかったということでもある。</li> <li>・農地については、農業政策との関連が大きいですが、残された農地を守る施策を展開してこなかったということであろう。周辺自治体では、獣害対策を重視したり、既に残された農地を死守しているところもある。農地は環境面からも価値が高いため、そういう視点も含めて農業政策を検討してもらえるとよい。</li> </ul>

会長	・先ほどの話だと、農地だけでなく、農業生産の仕組みも含めて検討が必要であると思われる。そういう意味では農地の総面積だけをとって指標にすることが妥当かどうかを検討する必要もある。
委員	・自然観光資源を訪れた人の数が減少しているが、これを増加させるとなると周辺環境整備も必要である。岩屋堂は、アプローチ道路や駐車場も狭いので、観光バスが入れる程度の整備が望まれる。
委員	・そのような整備がされて、観光客が増加するのは有り難いことだが、一方で今まで守られてきた良好な自然に悪影響を与える懸念もある。個人的には、興味のある人だけが来てくれればよく、例えば道の駅に駐車して、歩いてもらうなり、シャトルバスなどで送迎するなども考えられる。
委員	・地元の立場としては、シーズン中は周辺道路が渋滞していることもあり、日常生活でも不自由している。ある程度の整備は必要である。
会長	・観光客の数を増やすことだけを念頭に入れるといったように、指標だけに注目してしまうと、このような議論が忘れられがちになってしまうが、重要なことである。なかなか難しい問題である。
議事(2)	瀬戸市自然環境の保護及び保全特定地区候補地選定について
事務局	○資料3にて、第1回選定委員会の議事概要を報告
会長	・当会議の前に行われた第2回選定委員会の議事概要の報告
3 その他	○委員への連絡事項
事務局	・次回以降審議会開催日程として、第3回を12月2日(水)、第4回を2月24日(水)に開催予定。委員の出席をお願いします。
4 閉会	○閉会の言葉